

別添 2：農薬蜜蜂影響評価部会で検討した文献一覧（イミダクロプリド）

目 次

文献整理番号 1（成虫接触毒性試験）	2
文献整理番号 2（成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験）	3
文献整理番号 3（成虫単回経口毒性試験）	4
文献整理番号 4（成虫単回経口毒性試験）	5
文献整理番号 5（成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験）	6
文献整理番号 6（成虫単回経口毒性試験）	7
文献整理番号 7（成虫接触毒性試験）	8
文献整理番号 8（成虫接触毒性試験）	9
文献整理番号 9（幼虫経口毒性試験）	10
文献整理番号 10（成虫接触毒性試験）	11
文献整理番号 11（成虫単回経口毒性試験）	12
文献整理番号 12（成虫単回経口毒性試験）	13
文献整理番号 13（成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験）	14
文献整理番号 14（成虫接触毒性試験）	15
文献整理番号 15（成虫接触毒性試験）	16
文献整理番号 16（成虫接触毒性試験）	17
文献整理番号 17（成虫単回経口毒性試験）	18
文献整理番号 18（幼虫経口毒性試験）	19
文献整理番号 19（幼虫経口毒性試験）	20
文献整理番号 20（成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験）	21
文献整理番号 21（成虫単回経口毒性試験及び成虫反復経口毒性試験）	22
文献整理番号 22（成虫単回経口毒性試験）	23
文献整理番号 23～189：室内毒性試験の毒性指標（LD ₅₀ 又は LDD ₅₀ ）の報告がない文献.....	24

文献整理番号 1 (成虫接触毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	1995	文献整理番号	1	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(該当)
文献タイトル	Limitations to use of topical toxicity data for predictions of pesticide side effects in the field.						
著者/所属	Stark, John D.; Jepson, Paul C.; Mayer, Daniel F./Washington State University, Puyallup Research and Extension Center, Puyallup, WA 98371.						
雑誌名等	J. Econ. Entomol., Volume 88, Issue 5, Page 1081-8						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35℃である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 2 (成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2000	文献整理番号	2	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(追加)
文献タイトル	Characteristics of imidacloprid toxicity in two Apis mellifera subspecies.						
著者/所属	Suchail, Severine; Guez, David; Belzunces, Luc P./Institut National de la Recherche Agronomique, Laboratoire de Toxicologie Environnementale, Unite de Zoologie, Site Agroparc, 84914 Avignon Cedex 9, France.						
雑誌名等	Environ. Toxicol. Chem., Volume 19, Issue 7, Page 1901-1905						

当該文献の全文に適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34~35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 3 (成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2001	文献整理番号	3	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(追加)
文献タイトル	Toxicity of imidacloprid and its metabolites in Apis mellifera.						
著者/所属	Suchail, S.; Guez, D.; Belzunces, L. P./Inra Institut National De La Recherche Agronomique, Laboratoire De Toxicologie Environnementale, Unite De Zoologie Et Apidologie, Avignon, Fr.						
雑誌名等	Colloq. - Inst. Natl. Rech. Agron., Volume 98, Issue Hazards of Pesticides to Bees, Page 121-126						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34~35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 4 (成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2001	文献整理番号	4	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(8追加)
文献タイトル	Discrepancy between acute and chronic toxicity induced by imidacloprid and its metabolites in Apis mellifera						
著者/所属	Suchail, Severine; Guez, David; Belzunces, Luc P./INRA, Laboratoire de Toxicologie Environnementale, UMR INRA-UAPV Ecologie des Invertebre's, Site Agroparc, 84914 Avignon Cedex 9, France						
雑誌名等	Environmental Toxicology and Chemistry (2001), 20(11), 2482-2486						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23℃以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35℃である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 5 (成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2001	文献整理番号	5	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(追加)
文献タイトル	Toxicity and nicotinic acetylcholine receptor interaction of imidacloprid and its metabolites in Apis mellifera (Hymenoptera: Apidae)						
著者/所属	Nauen, Ralf; Ebbinghaus-Kintscher, Ulrich; Schmuck, Richard/Bayer AG, Agrochemicals Division, Research Insecticides, D-51368 Leverkusen, Germany						
雑誌名等	Pest Management Science (2001), 57(7), 577-586						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験1

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

2. 成虫接触毒性試験2

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

3. 成虫単回経口毒性試験1

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

4. 成虫単回経口毒性試験2

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

文献整理番号 6 (成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2003	文献整理番号	6	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(追加)
文献タイトル	Learning performances of honeybees (Apis mellifera L) are differentially affected by imidacloprid according to the season						
著者/所属	Decourtye, Axel; Lacassie, Eric; Pham- Deleue, Minh-Ha/Laboratoire de Neurobiologie Compare ´e des Inverte ´bre ´s, INRA, BP 23, La Guyonnerie, F-91440 Bures-sur-Yvette, France						
雑誌名等	Pest Management Science (2003), 59(3), 269-278						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	
5	試験区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23℃以上である	○
5	試験区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31℃以上である	
5	試験区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35℃である	
5	試験区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号7（成虫接触毒性試験）

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2004	文献整理番号	7	DA適合性区分* (a/b)	欧米評価書引用(追加)
文献タイトル	Mechanism for differential toxicity of neonicotinoid insecticides in the honey bee, <i>Apis mellifera</i>						
著者/所属	Iwasa, T., Motoyama, N., Ambrose, J.T., Roe, R.M./Department of Entomology, Dearthstye Entomology Building, Campus Box 7647, North Carolina State University, Raleigh, NC 27695-7647, USA						
雑誌名等	Crop Protection (2004) Vol. 23(5), pp. 371-378						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類（DA: Detailed Assessment）における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35℃である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2005	文献整理番号	8	DA適合性区分* (a/b)	飲米評価書引用(追加)
文献タイトル	Risk assessment of neonicotinoids applied to coffee ecosystem.						
著者/所属	Kumar, Senthil; Regupathy, C. M.; Regupathy, A./Department of Entomology, Tamil Nadu Agricultural University, Coimbatore 641 003, India.						
雑誌名等	Int. Pest Control, Volume 47, Issue 2, Page 82-87						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31℃以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35℃である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	対照区	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 9 (幼虫経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2012	文献整理番号	9	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Impaired olfactory associative behavior of honeybee workers due to contamination of imidacloprid in the larval stage.						
著者/所属	Yang, En-Cheng; Chang, Hui-Chun; Wu, Wen-Yen; Chen, Yu-Wen./1 Department of Entomology, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, 2 Graduate Institute of Brain and Mind Sciences, National Taiwan University, Taipei, Taiwan,						
雑誌名等	PLoS One, Volume 7, Issue 11, Page e49472, Publication Year 2012						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 20日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 72時間以上である	○
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	○

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2013	文献整理番号	10	DA適合性区分* (a/b)	海外評価審査適合性あり
文献タイトル	Neonicotinoid clothianidin adversely affects insect immunity and promotes replication of a viral pathogen in honey bees						
著者/所属	Di Prisco, Gennaro; Cavaliere, Valeria; Annoscia, Desiderato; Varricchio, Paola; Caprio, Emilio; Nazzi, Francesco; Gargiulo, Giuseppe; Pennacchio, Francesco/aDipartimento di Agraria, Laboratorio di Entomologia E. Tremblay, Università degli Studi di Napoli Federico II, I-80055 Portici, Italy						
雑誌名等	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America (2013), 110(46), 18466-18471, S18466/1- S18466/7						

*当該文献の全文に適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2013	文献整理番号	11	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Brain Morphophysiology of Africanized Bee Apis mellifera Exposed to Sublethal Doses of Imidacloprid.						
著者/所属	De Almeida Rossi, Caroline; Roat, Thaisa Cristina; Tavares, Daiana Antonia; Cintra- Socolowski, Priscila; Malaspina, Osmar./Departamento de Biologia, Centro de Estudos de Insetos Sociais, Instituto de Biotecnologia de Rio Claro, UNESP-Universidade Estadual Paulista, Av. 24A, 1515, Bela Vista, Rio Claro, SP 13500-900, Brazil						
雑誌名等	Arch. Environ. Contam. Toxicol., Volume 65, Issue 2, Page 234-243, Publication Year						

*当該文献の全文に適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 48時間以上である	○
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 12 (成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2013	文献整理番号	12	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Influence of agrochemicals fipronil and imidacloprid on the learning behavior of Apis mellifera L. honeybees						
著者/所属	Carrillo, Marcela Pedraza; Bovi, Thais De Souza; Negrao, Adriana Fava; Orsi, Ricardo De Oliveira [Reprint Author]/						
雑誌名等	Acta Scientiarum Animal Sciences, (OCT- DEC 2013) Vol. 35, No. 4, pp. 431-434.						

*当該文献の全文に適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23°C以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23°C以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31°C以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34~35°Cである	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 13 (成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2014	文献整理番号	13	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Potential impacts of synergism in honeybees (<i>Apis mellifera</i>) of exposure to neonicotinoids and sprayed fungicides in crops						
著者/所属	Thompson, Helen M.; Fryday, Steven L.; Harkin, Sarah; Milner, Sarah/Food and Environment Research Agency, Sand Hutton, York YO41 1LZ, UK						
雑誌名等	Apidologie (2014), 45(5), 545-553						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3 試験期間	48時間以上である	○
4 温度	試験期間中23°C以上である	○
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3 試験期間	48時間以上である	○
4 温度	試験期間中23°C以上である	○
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	10日間以上である	
4 温度	試験期間中31°C以上である	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	72時間以上である	
4 温度	試験期間中34~35°Cである	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 14 (成虫接触毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2015	文献整理番号	14	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Wings as a new route of exposure to pesticides in the honey bee						
著者/所属	Poquet, Yannick; Kairo, Guillaume;/INRA, French National Institute for Agricultural Research, Environmental Toxicology, Bees and Environment, Avignon Cedex, France						
雑誌名等	Environmental Toxicology and Chemistry (2015), 34(9), 1983-1988						

*当該文献の全文に適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 48時間以上である	○
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2017	文献整理番号	15	DA適合性区分*	a
文献タイトル	Evaluation of acute contact toxicity of imidacloprid to Apis mellifera under laboratory conditions						
著者/所属	Ram, Budhi; Sharma, Harish Kumar; Dubey, J. K.; Sharma, K. C.; Patiyal, S. K./Department of Entomology, Dr.Y.S. Parmar University of Horticulture and Forestry, Nauni, Solan (H.P), India						
雑誌名等	Journal of Pharmacognosy and Phytochemistry (2017), 6(Spec.Iss.1), 984-986						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2017	文献整理番号	16	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Risk assessment of various insecticides used for management of Asian citrus psyllid, <i>Diaphorina citri</i> in Florida citrus, against honey bee, <i>Apis mellifera</i>						
著者/所属	Chen, Xue Dong; Gill, Torrence A.; Pelz- Stelinski, Kirsten S.; Stelinski, Lukasz L./Entomology and Nematology Department, University of Florida, Citrus Research and Education Center, 700 Experiment Station Rd, Lake Alfred, FL 33850, USA						
雑誌名等	Ecotoxicology (2017) Ahead of Print						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 48時間以上である	○
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 17 (成虫単回経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2017	文献整理番号	17	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Differential physiological effects of neonicotinoid insecticides on honey bees : A comparison between Apis mellifera and Apis cerana						
著者/所属	Li, Zhiguo; Li, Meng; He, Jingfang; Zhao, Xiaomeng; Chaimanee, Veeranan; Huang, Wei-Fone; Nie, Hongyi; Zhao, Yazhou; Su, Songkun/College of Bee Sciences, Fujian Agriculture and Forestry University, Fuzhou 350002, Fujian, China						
雑誌名等	Pesticide Biochemistry and Physiology (2017) Ahead of Print						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	48時間以上である	
4 温度	試験期間中23℃以上である	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3 試験期間	48時間以上である	
4 温度	試験期間中23℃以上である	○
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	10日間以上である	
4 温度	試験期間中31℃以上である	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	72時間以上である	
4 温度	試験期間中34～35℃である	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 18 (幼虫経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2017	文献整理番号	18	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Acute toxicity of five pesticides to Apis mellifera larvae reared in vitro.						
著者/所属	Dai Pingli; Jack Cameron J; Mortensen Ashley N; Ellis James D/a; Key Laboratory of Pollinating Insect Biology, Institute of Apicultural Research, Chinese Academy of Agricultural Sciences, Beijing, China. b HoneyBee Research and Extension Laboratory, Department of Entomology and Nematology, University of Florida, Gainesville, FL, USA						
雑誌名等	Pest management science, (2017 May 09) . Electronic Publication Date: 9 May 2017						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 14日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 72時間以上である	○
4	温度 試験期間中34～35℃である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	○

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2018	文献整理番号	19	DA適合性区分* (a/b)	a
文献タイトル	Chronic toxicity of clothianidin, imidacloprid, chlorpyrifos, and dimethoate to Apis mellifera L. larvae reared in vitro						
著者/所属	Dai Pingli; Jack Cameron J; Mortensen Ashley N; Bustamante Tomas A; Bloomquist Jeffrey R; Ellis James D/Key Laboratory of Pollinating Insect Biology, Institute of Apicultural Research, Chinese Academy of Agricultural Sciences, Beijing, China						
雑誌名等	Pest management science, (2018 Jun 21) .Electronic Publication Date: 21 Jun 2018						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 72時間以上である	○
4	温度 試験期間中34～35℃である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	○

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2018	文献整理番号	20	DA適合性区分* (a/b)	海外評価適合性あり
文献タイトル	Apis mellifera (Insecta: Hymenoptera) in the target of neonicotinoids: A one-way ticket? Bioinsecticides can be an alternative						
著者/所属	Santos, Ane C. C.; Cristaldo, Paulo F.; Araujo, Ana P. A.; Melo, Carlisson R.; Lima, Ana P. S.; Santana, Emile D. R.; De Oliveira, Bruna M. S.; Oliveira, Jose W. S.; Vieira, Jodnes S.; Blank, Arie F.; Bacci, Leandro/Programa de Pós-Graduação em Agricultura e Biodiversidade, Universidade Federal de Sergipe, São Cristóvão, SE, Brazil						
雑誌名等	Ecotoxicology and Environmental Safety (2018), 163, 28-36						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 10日間以上である	
4	温度 試験期間中31℃以上である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	対照区 被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 2 1 (成虫単回経口毒性試験及び成虫反復経口毒性試験)

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2020	文献整理番号	21	DA適合性区分* (a/b)	a
文献タイトル	Concentration-and time-dependent toxicity ofcommonly encountered pesticides andpesticide mixtures to honeybees (Apismellifera L.)						
著者/所属	Bommuraj, Vijayakumar; Chen, Yaira;Birenboim, Matan; Barel, Shimon;Shimshoni, Jakob A./Department of Food Quality & Safety, Institute for Postharvest and Food Sciences, Agricultural Research Organization, Volcani Center, Rishon LeZion, 7505101, Israel						
雑誌名等	Chemosphere (2020) Ahead of Print						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 48時間以上である	
4	温度 試験期間中23℃以上である	
5	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 48時間以上である	○
4	温度 試験期間中23℃以上である	○
5	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間 10日間以上である	○
4	温度 試験期間中31℃以上である	○
5	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	○

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1	試験生物 孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質 「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間 72時間以上である	
4	温度 試験期間中34～35℃である	
5	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	イミダクロプリド	出版年	2020	文献整理番号	22	DA適合性区分* (a/b)	b
文献タイトル	Impact of type and extent of sugars on the oral toxicity of imidacloprid on honeybees, Apis mellifera (Linn.)						
著者/所属	Kaur, Satinder; Nath, Ravinder; Deep, Gagan; Singh, Harpreet/Department of Entomology, School of Agriculture, Lovely Professional University, Phagwara - 144 001, Punjab, India						
雑誌名等	Journal of Entomological Research, (DEC2020) Vol. 44, No. 4, pp. 595-599.						

*当該文献の全文による適合性に基づく分類 (DA: Detailed Assessment) における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1. 成虫接触毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	48時間以上である	
4 温度	試験期間中23°C以上である	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2. 成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	48時間以上である	
4 温度	試験期間中23°C以上である	○
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

3. 成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	10日間以上である	
4 温度	試験期間中31°C以上である	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4. 幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目	はい
1 試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2 被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3 試験期間	72時間以上である	
4 温度	試験期間中34~35°Cである	
5 対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6	被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号 23～189 : 室内毒性試験の毒性指標 (LD₅₀ 又は LDD₅₀) の報告がない文献

文献整理番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
23	Bitterman, M. E.; Menzel, R.; Fietz, A.; Schaefer, S.; B	1983	Classical conditioning of proboscis extension in honeybees (<i>Apis mellifera</i>).	"Journal of Comparative Psychology (1983), Volume 97, Number 2, pp. 107-119
24	Mayer, D. F.; Lunden, J. D.; Husfloen, M. R.	1993	Bee poisoning hazard , Prosser, 1990-1991.	Burditt, A. K., Jr. [Editor]. Insecticide and Acaricide Tests, (1993) pp. 361.
25	Mayer, D. F.; Lunden, J. D.	1994	Effects of the adjuvant Sylgard 309 on the hazard of selected insecticides to honey bees .	Bee Science (1994), Volume 3, Number 3, pp. 135-138
26	Mayer, D. F.; Patten, K. D.; Macfarlane, R. P.; Shanks, C. H.	1994	Differences between susceptibility of four pollinator species (Hymenoptera: Apoidea) to field weathered insecticide residues.	Melandria (1994), Volume 50, pp. 24-27
27	Mayer, D. F.; Lunden, J. D.	1997	Effects of imidacloprid insecticide on three bee pollinators.	Horticultural Science (1997), Volume 29, Number 1/2, pp. 93-97
28	El-Din, H. A. S.; Girgis, N. R.	1997	Susceptibility of honey bee workers, <i>Apis mellifera</i> L. to nine different insecticides.	Annals of Agricultural Science, Moshtohor (1997), Volume 35, Number 4, pp. 2571-2582
29	Ambolet, B.; Crevat, J. F.; Schmidt, H. W.	1997	Research on secondary effects of seed treatment with imidacloprid on the behaviour of honey bees on flowers of sunflower.	ANPP-4 eme Conference internationale sur les ravageurs en agriculture, Montpellier 6-8 Janvier 1997. (1997), pp. 103-110
30	Ray, Steve; Ferneyhough, Ben	1999	Behavioral development and olfactory learning in the honeybee (<i>Apis mellifera</i>).	Developmental Psychobiology, (Jan., 1999) Vol. 34, No. 1, pp. 21-27
31	Hernandez, D.; Mansanet, V.; Puiggros Jove, J. M.	1999	Use of Confidor 200 SL in vegetable cultivation in Spain.	Pflanzenschutz-Nachr. Bayer (Ger. Ed.), Volume 52, Issue 3, Page 374-385
32	Ambolet, B.; Crevat, J. F.; Cure, G.; Schmuck, R.; Vincinaux, C.	1999	Influence under field condition of imidacloprid on honeybees . Etude au champ des effets de limidaclopride sur abeilles.	Proceedings of the Fifth International Conference on Pests in Agriculture, Part 3, Montpellier, France, 7-9 December, 1999. (1999), pp. 617-62

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
33	Wallner, K.	1999	Tests regarding the danger of the seed disinfectant Gaucho 70WS (imidacloprid) for honeybees	Apidologie (France)(1999), Volume 30 Issue 5, pp. 422-424
34	Armengaud, C.; Causse, N.; Ait-Oubah, J.; Ginolhac, A.; Gauthier, M.	2000	Functional cytochrome oxidase histochemistry in the honeybee brain.	Brain Res., Volume 859, Issue 2, Page 390-393
35	Decourtye, A.; Le Metayer, M.; Pottiau, H.; Tisseur, M.; Odoux, J. F.; Pham-Delegue, M. H.	2001	Impairment of olfactory learning performances in the honey bee after long term ingestion of imidacloprid.	Colloq. - Inst. Natl. Rech. Agron., Volume 98, Issue Hazards of Pesticides to Bees, Page 113-117
36	Guez, David; Suchail, Severine; Gauthier, Monique; Maleszka, Ryszard; Belzunces, Luc P.	2001	Contrasting Effects of imidacloprid on Habituation in 7- and 8-Day-Old Honeybees (<i>Apis mellifera</i>).	Neurobiol. Learn. Mem., Volume 76, Issue 2, Page 183-19
37	Colin, M. E.; Le Conte, Y.; Vermandere, J. P.	2001	Managing nuclei in insect-proof tunnel as an observation tool for foraging bees: sublethal effects of deltamethrin and imidacloprid.	Colloq. - Inst. Natl. Rech. Agron., Volume 98, Issue Hazards of Pesticides to Bees, Page 259-268
38	Cure, G.; Schmidt, H. W.; Schmuck, R.	2001	Results of a comprehensive field research program with the systemic insecticide imidacloprid (Gaucho).	Colloq. - Inst. Natl. Rech. Agron., Volume 98, Issue Hazards of Pesticides to Bees, Page 49-59
39	Schmuck, Richard; Schoning, Ralf; Stork, Andreas; Schramel, Oliver.	2001	Risk posed to honeybees (<i>Apis mellifera</i> L, Hymenoptera) by an imidacloprid seed dressing of sunflowers.	Pest Manage. Sci., Volume 57, Issue 3, Page 225-238
40	Wallner, K.	2001	Tests regarding effects of imidacloprid on honey bees.	Colloq. - Inst. Natl. Rech. Agron., Volume 98, Issue Hazards of Pesticides to Bees, Page 91-94
41	Cantoni, A.; Schmidt, H.-W.; Gilli, J.	2001	Bee-friendly use of Confidor + oliocin in apple cultivation in Italy.	Pflanzenschutz-Nachr. Bayer (Engl. Ed.), Volume 54, Issue 3, Page 353-368
42	Lambin, M.; Armengaud, C.; Raymond, S.; Gauthier, M.	2001	Imidacloprid-induced facilitation of the proboscis extension reflex habituation in the honeybee.	Arch. Insect Biochem. Physiol., Volume 48, Issue 3, Page 129-134

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
43	Deglise, Patrice (Correspondence); Grunewald, Bernd; Gauthier, Monique	2002	Erratum: The insecticide imidacloprid is a partial agonist of the nicotinic receptor of honeybee Kenyon cells (Neuroscience Letters (2002) 321 (13-16) PII S0304394001024004).	Neuroscience Letters, (10 May 2002) Vol. 324, No. 1, pp. 86
44	Deglise, Patrice; Grunewald, Bernd; Gauthier, Monique.	2002	The insecticide imidacloprid is a partial agonist of the nicotinic receptor of honeybee Kenyon cells.	Neurosci. Lett., Volume 321, Issue 1-2, Page 13-16
45	Armengaud, C.; Lambin, M.; Gauthier, M.	2002	Effects of imidacloprid on the neural processes of memory in honey bees.	Honey Bees: Estim. Environ. Impact Chem., Page 85-100
46	Moncharmont, Francois-Xavier Dechaume; Decourtye, Axel; Hennequet-Hantier, Christelle; Pons, Odile; Pham-Delegue, Minh-Ha.	2003	Statistical analysis of honeybee survival after chronic exposure to insecticides.	Environ. Toxicol. Chem., Volume 22, Issue 12, Page 3088-3094
47	Bortolotti, Laura [Reprint Author]; Montanari, Rebecca; Marcelino, Jose; Medrzycki, Piotr; Maini, Stefano; Porrini, Claudio	2003	Effects of sub - lethal imidacloprid doses on the homing rate and foraging activity of honey bees .	Bulletin of Insectology, (June 2003) Vol. 56, No. 1, pp. 63-67
48	Medrzycki, Piotr [Reprint Author]; Montanari, Rebecca; Bortolotti, Laura; Sabatini, Anna Gloria; Maini, Stefano; Porrini, Claudio	2003	Effects of imidacloprid administered in sub - lethal doses on honey bee behaviour . Laboratory tests.	Bulletin of Insectology, (June 2003) Vol. 56, No. 1, pp. 59-62
49	Moise, A.; Marghitas, L. A.; Dezmarean, D.; Man, M.	2003	Research concerning the effect of imidacloprid on honey bees (Apis mellifera carpatica).	Buletinul Universitatii de Stiinte Agricole si Medicina Veterinara Cluj-Napoca, Seria Zootehnie si Biotehnologii (2003), Volume 59, pp. 184-187
50	Schmuck, R.; Nauen, R.; Ebbinghaus-Kintscher, U. Editor(S): Porrini, C.; Bortolotti, L.	2003	Effects of imidacloprid and common plant metabolites of imidacloprid in the honeybee: toxicological and biochemical considerations.	Bulletin of Insectology (2003) Volume 56, Number 1, pp. 27-34
51	Stadler, Teodoro [Reprint Author]; Martinez Gines, Dolores; Buteler, Micaela	2003	Long-term toxicity assessment of imidacloprid to evaluate side effects on honey bees exposed to treated sunflower in Argentina.	Bulletin of Insectology, (June 2003) Vol. 56, No. 1, pp. 77-81

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
52	Schnier, Heinz Friedrich [Reprint Author]; Wenig, Guido; Laubert, Frank; Simon, Volker; Schmuck, Richard	2003	Honey bee safety of imidacloprid corn seed treatment.	Bulletin of Insectology, (June 2003) Vol. 56, No. 1, pp. 73-75
53	Rogers, Richard E. L. [Reprint Author]; Kemp, James R.	2003	Imidacloprid , potatoes, and honey bees in Atlantic Canada: Is there a connection?.	Bulletin of Insectology, (June 2003) Vol. 56, No. 1, pp. 83-88
54	Sur, Robin [Reprint Author]; Stork, Andreas	2003	Uptake, translocation and metabolism of imidacloprid in plants.	Bulletin of Insectology, (June 2003) Vol. 56, No. 1, pp. 35-40
55	Laurent, Francois M.; Rathahao, Estelle	2003	Distribution of [14c]imidacloprid in sunflowers (<i>Helianthus annuus</i> L.) following seed treatment	Journal of Agricultural and Food Chemistry (2003), 51(27), 8005-8010
56	Schmuck, R.	2004	Effects of a Chronic Dietary Exposure of the Honeybee <i>Apis mellifera</i> (Hymenoptera: Apidae) to Imidacloprid.	Arch. Environ. Contam. Toxicol., Volume 47, Issue 4, Page 471-478
57	Colin, M. E.; Bonmatin, J. M.; Moineau, I.; Gaimon, C.; Brun, S.; Vermandere, J. P.	2004	A Method to Quantify and Analyze the Foraging Activity of Honey Bees: Relevance to the Sublethal Effects Induced by Systemic Insecticides.	Arch. Environ. Contam. Toxicol., Volume 47, Issue 3, Page 387-395
58	Decourtye, Axel; Armengaud, Catherine; Renou, Michel; Devillers, James; Cluzeau, Sophie; Gauthier, Monique; Pham-Delegue, Minh-Ha.	2004	Imidacloprid impairs memory and brain metabolism in the honeybee (<i>Apis mellifera</i> L.).	Pestic. Biochem. Physiol., Volume 78, Issue 2, Page 83-92
59	Decourtye, Axel; Devillers, James; Cluzeau, Sophie; Charreton, Mercedes; Pham-Delegue, Minh-Ha.	2004	Effects of imidacloprid and deltamethrin on associative learning in honeybees under semi- field and laboratory conditions.	Ecotoxicol. Environ. Saf., Volume 57, Issue 3, Page 410-419
60	Charvet, R.; Katouzian-Safadi, M.; Colin, M.-E.; Marchand, P.-A.; Bonmatin, J.-M.	2004	Systemic insecticides: new risk for pollinator insects.	Ann. Pharm. Fr., Volume 62, Issue 1, Page 29-35
61	Singh, R. P.	2004	Honey bee (<i>Apis mellifera</i>) foraging and management of aphid by spraying imidacloprid during flowering of <i>Brassica rapa</i> .	Annals of Plant Protection Sciences (2004), Volume 12, Number 1, pp. 29-31

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
62	Gregorc, A.; Bozic, J.	2004	Is honey bee colonies mortality related to insecticide use in agriculture? Ali cebelje družine odmirajo zaradi uporabe insekticida v kmetijstvu?	Sodobno Kmetijstvo (2004), Volume 37, Number 7, pp. 29-32
63	Suchail, Severine; De Sousa, Georges; Rahmani, Roger; Belzunces, Luc P.	2004	In vivo distribution and metabolisation of ¹⁴ C-imidacloprid in different compartments of <i>Apis mellifera</i> L.	Pest Manage. Sci., Volume 60, Issue 11, Page 1056-1062
64	Bailey, Janisse; Scott-Dupree, Cynthia; Harris, Ron; Tolman, Jeff; Harris, Brenda.	2005	Contact and oral toxicity to honey bees (<i>Apis mellifera</i>) of agents registered for use for sweet corn insect control in Ontario, Canada.	Apidologie, Volume 36, Issue 4, Page 623-633
65	Singh, Neetu; Karnatak, A. K.	2005	Relative toxicity of some insecticides to the workers of <i>Apis mellifera</i> L.	Shashpa, Volume 12, Issue 1, Page 23-25
66	Barbara, Guillaume Stephane; Zube, Christina; Rybak, Juergen; Gauthier, Monique; Gruenewald, Bernd [Reprint Author]	2005	Acetylcholine, GABA and glutamate induce ionic currents in cultured antennal lobe neurons of the honeybee, <i>Apis mellifera</i> .	Journal of Comparative Physiology A Neuroethology Sensory Neural and Behavioral Physiology, (SEP 2005) Vol. 191, No. 9, pp. 823-836
67	Ramirez-Romero, Ricardo; Chaufaux, Josette; Pham-Delegue, Minh-Ha.	2005	Effects of Cry1Ab protoxin, deltamethrin and imidacloprid on the foraging activity and the learning performances of the honeybee <i>Apis mellifera</i> , a comparative approach.	Apidologie, Volume 36, Issue 4, Page 601-611
68	Faucon, Jean-Paul; Aurieres, Clement; Drajnudel, Patrick; Mathieu, Laetitia; Ribiere, Magali; Martel, Anne-Claire; Zeggane, Sarah; Chauzat, Marie-Pierre; Aubert, Michel F. A.	2005	Experimental study on the toxicity of imidacloprid given in syrup to honey bee (<i>Apis mellifera</i>) colonies.	Pest Manage. Sci., Volume 61, Issue 2, Page 111-125
69	Rossi, S.; Sabatini, A. G.; Cenciarini, R.; Ghini, S.; Girotti, S.	2005	Use of high-performance liquid chromatography-UV and gas chromatography-mass spectrometry for determination of the imidacloprid content of honeybees, pollen, paper filters, grass, and flowers.	Chromatographia, Volume 61, Issue 3/4, Page 189-195
70	Bonmatin, J. M.; Marchand, P. A.; Charvet, R.; Moineau, I.; Bengsch, E. R.; Colin, M. E.	2005	Quantification of Imidacloprid Uptake in Maize Crops.	J. Agric. Food Chem., Volume 53, Issue 13, Page 5336-5341

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
71	Karnatak, A. K.; Thorat, Pradip V.	2006	Effect of insecticidal micro-environment on the honey bee, <i>Apis mellifera</i> in <i>Brassica napus</i> .	Journal of Applied Bioscience, (JUN 2006) Vol. 32, No. 1, pp. 93-94
72	Greatti, Moreno; Barbattini, Renzo; Stravisi, Antonella; Sabatini, Anna Gloria; Rossi, Simona [Reprint Author]	2006	Presence of the a.i. imidacloprid on vegetation near corn fields sown with Gaucho ((R)) dressed seeds.	Bulletin of Insectology, (DEC 2006) Vol. 59, No. 2, pp. 99-103
73	Department for Environment Food and Rural Affairs	2007	Assessment of the Risk Posed to Honeybees by Systemic Pesticides	Science and Research Projects, PS2322, 2022
74	Ramirez-Romero, R.; Desneux, N.; Decourtye, A.; Chaffiol, A.; Pham-Delegue, M. H.	2008	Does Cry1Ab protein affect learning performances of the honey bee <i>Apis mellifera</i> L. (Hymenoptera, Apidae)?.	Ecotoxicol. Environ. Saf., Volume 70, Issue 2, Page 327-333
75	Barbara, Guillaume Stephane; Gruenewald, Bernd; Paute, Sandrine; Gauthier, Monique; Raymond-Delpech, Valerie.	2008	Study of nicotinic acetylcholine receptors on cultured antennal lobe neurons from adult honeybee brains.	Invertebr. Neurosci., Volume 8, Issue 1, Page 19-29
76	Yang, E. C.; Chuang, Y. C.; Chen, Y. L.; Chang, L. H.	2008	Abnormal foraging behavior induced by sublethal dosage of imidacloprid in the honey bee (Hymenoptera: Apidae)	Journal of Economic Entomology (2008), 101(6), 1743-1748
77	Choudhary, Amit; Sharma, D. C.	2008	Dynamics of pesticide residues in nectar and pollen of mustard (<i>Brassica juncea</i> (L.) Czern.) grown in Himachal Pradesh (India).	Environ. Monit. Assess., Volume 144, Issue 1-3, Page 143-150, Publication Year 2008
78	Belien, T. (Correspondence); Kellers, J.; Heylen, K.; Keulemans, W.; Billen, J.; Arckens, L.; Huybrechts, R.; Gobin, B.	2009	Effects of sublethal doses of crop protection agents on honey bee (<i>Apis mellifera</i>) global colony vitality and its potential link with aberrant foraging activity..	Communications in agricultural and applied biological sciences, (2009) Vol. 74, No. 1, pp. 245-253. ISSN: 1379-1176
79	Nguyen B K; Saegerman C; Pirard C; Mignon J; Widart J; Thirionet B; Verheggen F J; Berkvens D; De Pauw E; Haubruge E	2009	Does imidacloprid seed-treated maize have an impact on honey bee mortality?.	Journal of economic entomology, (2009 Apr) Vol. 102, No. 2, pp. 616-23.

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
80	Smoldis Skerl, Maja Ivana; Gregorc, Ales.	2009	Heat shock proteins and cell death in situ localization in hypopharyngeal glands of honeybee (<i>Apis mellifera carnica</i>) workers after imidacloprid or coumaphos treatment.	Apidologie, Volume 41, Issue 1, Page 73-86
81	Choudhary, A.; Sharma, D. C.; Badiyala, A.	2009	Relative safety of some pesticides against honey bees, <i>Apis cerana cerana</i> Fab. and <i>Apis mellifera</i> L. on mustard (<i>Brassica juncea</i> L. Czern).	Pestic. Res. J., Volume 21, Issue 1, Page 67-70
82	Girolami, V.; Mazzon, L.; Squartini, A.; Mori, N.; Marzaro, M.; Di Bernardo, A.; Greatti, M.; Giorio, C.; Tapparo, A.	2009	Translocation of neonicotinoid insecticides from coated seeds to seedling guttation drops: a novel way of intoxication for bees.	J. Econ. Entomol., Volume 102, Issue 5, Page 1808-1815
83	Alaux, C.; Brunet, J. L.; Dussaubat, C.; Mondet, F.; Tchamitchan, S.; Cousin, M.; Brillard, J.; Baldy, A.; Belzunces, L. P.; Conte, Y. Le; Le Conte, Y.	2010	Interactions between <i>Nosema</i> microspores and a neonicotinoid weaken honeybees (<i>Apis mellifera</i>).	Environmental Microbiology (2010), Volume 12, Number 3, pp. 774-782
84	Dussaubat, Claudia; Maisonnasse, Alban; Alaux, Cedric; Tchamitchan, Sylvie; Brunet, Jean-Luc; Plettner, Erika; Belzunces, Luc P.; Le Conte, Yves	2010	<i>Nosema</i> spp. Infection Alters Pheromone Production in Honey Bees (<i>Apis mellifera</i>)	Journal of Chemical Ecology (2010), 36(5),522-525
85	Han, Peng; Niu, Chang-Ying; Lei, Chao-Liang; Cui, Jin-Jie; Desneux, Nicolas.	2010	Quantification of toxins in a Cry1Ac + CpTI cotton cultivar and its potential effects on the honey bee <i>Apis mellifera</i> L.	Ecotoxicology, Volume 19, Issue 8, Page 1452-1459
86	Niu, Chang-Ying (Reprint) Han, Peng; Niu, Chang-Ying (Reprint); Lei, Chao-Liang Cui, Jin-Jie Desneux, Nicolas	2010	Use of an innovative T-tube maze assay and the proboscis extension response assay to assess sublethal effects of GM products and pesticides on learning capacity of the honey bee <i>Apis mellifera</i> L.	ECOTOXICOLOGY, (NOV 2010) Vol. 19, No. 8, pp. 1612-1619

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
87	Chauzat, Marie-Pierre; Martel, Anne-Claire; Cougoule, Nicolas; Porta, Philippe; Lachaize, Julie; Zeggane, Sarah; Aubert, Michel; Carpentier, Patrice; Faucon, Jean-Paul	2010	An assessment of honeybee colony matrices, <i>Apis mellifera</i> (hymenoptera: apidae) to monitor pesticide presence in continental France	Environmental Toxicology and Chemistry (2010), Volume Date 2011, 30(1), 103-111
88	Dupuis, Julien Pierre; Gauthier, Monique; Raymond-Delpech, Valerie.	2011	Expression patterns of nicotinic subunits 2, 7, 8, and 1 affect the kinetics and pharmacology of ACh-induced currents in adult bee olfactory neuropiles.	J. Neurophysiol., Volume 106, Issue 4, Page 1604-1613
89	Girolami, V.; Marzaro, M.; Vivan, L.; Mazzon, L.; Greatti, M.; Giorio, C.; Marton, D.; Tapparo, A.	2011	Fatal powdering of bees in flight with particulates of neonicotinoids seed coating and humidity implication	Journal of Applied Entomology (Feb 2012) Volume 136, Number 1-2, pp. 17-26
90	Heylen, Kevin; Gobin, Bruno; Arckens, Lutgarde; Huybrechts, Roger; Billen, Johan.	2011	The effects of four crop protection products on the morphology and ultrastructure of the hypopharyngeal gland of the European honeybee, <i>Apis mellifera</i> .	Apidologie, Volume 42, Issue 1, Page 103-116
91	Gregorc, Ales; Ellis, James D.	2011	Cell death localization in situ in laboratory reared honey bee (<i>Apis mellifera</i> L.) larvae treated with pesticides.	Pestic. Biochem. Physiol., Volume 99, Issue 2, Page 200-207
92	Donnarumma, Lucia; Pulcini, Patrizio; Pochi, Daniele; Rosati, Silvia; Lusco, Lorenzo; Conte, Elisa.	2011	Preliminary study on persistence in soil and residues in maize of imidacloprid.	J. Environ. Sci. Health, Part B, Volume 46, Issue 6, Page 469-472
93	Tapparo, Andrea; Giorio, Chiara; Marzaro, Matteo; Marton, Daniele; Solda, Lidia; Girolami, Vincenzo.	2011	Rapid analysis of neonicotinoid insecticides in guttation drops of corn seedlings obtained from coated seeds.	J. Environ. Monit., Volume 13, Issue 6, Page 1564-1568
94	Reetz, Jana E.; Zuehlke, Sebastian; Spiteller, Michael; Wallner, Klaus.	2011	Neonicotinoid insecticides translocated in guttated droplets of seed-treated maize and wheat: a threat to honeybees?.	Apidologie, Volume 42, Issue 5, Page 596-606

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
95	Biocca, Marcello; Conte, Elisa; Pulcini, Patrizio; Marinelli, Enzo; Pochi, Daniele.	2011	Sowing simulation tests of a pneumatic drill equipped with systems aimed at reducing the emission of abrasion dust from maize dressed seed.	J. Environ. Sci. Health, Part B, Volume 46, Issue 6, Page 438-448
96	Cresswell, James E. [Reprint Author]; Page, Christopher J.; Uygun, Mehmet B.; Holmbergh, Marie; Li, Yueru; Wheeler, Jonathan G.; Laycock, Ian; Pook, Christopher J.; De Ibarra, Natalie Hempel; Smirnoff, Nick; Tyler, Charles R.	2012	Differential sensitivity of honey bees and bumble bees to a dietary insecticide (imidacloprid).	Zoology (Jena), (DEC 2012) Vol. 115, No. 6, pp. 365-371
97	Han, Peng; Niu, Chang-Ying; Biondi, Antonio; Desneux, Nicolas.	2012	Does transgenic Cry1Ac + CpTI cotton pollen affect hypopharyngeal gland development and midgut proteolytic enzyme activity in the honey bee <i>Apis mellifera</i> L. (Hymenoptera, Apidae)?.	Ecotoxicology, Volume 21, Issue 8, Page 2214-2221
98	Henry, Mickael; Beguin, Maxime; Requier, Fabrice; Rollin, Orianne; Odoux, Jean- Francois; Aupinel, Pierrick; Aptel, Jean; Tchamitchian, Sylvie; Decourtye, Axel	2012	A Common Pesticide Decreases Foraging Success and Survival in Honey Bees	Science (Washington, DC, United States) (2012), 336(6079), 348-350
99	Eiri, Daren M. (Reprint) Eiri, Daren M. (Reprint); Nieh, James C.	2012	A nicotinic acetylcholine receptor agonist affects honey bee sucrose responsiveness and decreases waggle dancing	JOURNAL OF EXPERIMENTAL BIOLOGY, (JUN 2012) Vol. 215, No. 12, pp. 2022-2029
100	Anoop Kumar; Ram Singh; Kumar, A.; Singh, R.	2012	Effect of biopesticides and insecticides on aphid population, bee visits and yield of mustard.	Annals of Plant Protection Sciences (2012), Volume 20, Number 1, pp. 206-209

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
101	Johnson, Reed M.; Mao, Wenfu; Pollock, Henry S.; Niu, Guodong; Schuler, Mary A.; Berenbaum, May R.	2012	Ecologically appropriate xenobiotics induce cytochrome P450s in <i>Apis mellifera</i> .	PLoS One, Volume 7, Issue 2, Page e31051
102	Lu, Chensheng [Reprint Author]; Warchol, Kenneth M.; Callahan, Richard A.	2012	In situ replication of honey bee colony collapse disorder.	Bulletin of Insectology, (JUN 2012) Vol. 65, No. 1, pp. 99-106
103	Pettis, Jeffery S.; Van Engelsdorp, Dennis; Johnson, Josephine; Dively, Galen	2012	Pesticide exposure in honey bees results in increased levels of the gut pathogen <i>Nosema</i>	Naturwissenschaften (2012), 99(2), 153-158
104	Gill, Richard J.; Ramos-Rodriguez, Oscar; Raine, Nigel E.	2012	Combined pesticide exposure severely affects individual- and colony-level traits in bees.	Nature (London, U. K.), Volume 491, Issue 7422, Page 105-108
105	Gregorc, Ales; Evans, Jay D.; Scharf, Mike; Ellis, James D.	2012	Gene expression in honey bee (<i>Apis mellifera</i>) larvae exposed to pesticides and Varroa mites (<i>Varroa destructor</i>).	J. Insect Physiol., Volume 58, Issue 8, Page 1042-1049
106	Teeters, Bethany S.; Johnson, Reed M.; Ellis, Marion D.; Siegfried, Blair D.	2012	Using video-tracking to assess sublethal effects of pesticides on honey bees (<i>Apis mellifera</i> L.)	Environmental Toxicology and Chemistry (2012), 31(6), 1349-1354
107	Schneider, Christof W.; Tautz, Juergen; Gruenewald, Bernd; Fuchs, Stefan.	2012	RFID tracking of sublethal effects of two neonicotinoid insecticides on the foraging behavior of <i>Apis mellifera</i> .	PLoS One, Volume 7, Issue 1, Page e30023, Publication Year 2012
108	Tapparo, Andrea; Marton, Daniele; Giorio, Chiara; Zanella, Alessandro; Solda, Lidia; Marzaro, Matteo; Vivan, Linda; Girolami, Vincenzo	2012	Assessment of the Environmental Exposure of Honeybees to Particulate Matter Containing Neonicotinoid Insecticides Coming from Corn Coated Seeds	Environmental Science and Technology (2012), 46(5), 2592-2599
109	Stoner, Kimberly A.; Eitzer, Brian D.	2012	Movement of soil-applied imidacloprid and thiamethoxam into nectar and pollen of squash (<i>Cucurbita pepo</i>)	PLoS One (2012), 7(6), e39114
110	Dively, Galen P.; Kamel, Alaa	2012	Insecticide Residues in Pollen and Nectar of a Cucurbit Crop and Their Potential Exposure to Pollinators	Journal of Agricultural and Food Chemistry (2012), 60(18), 4449-4456

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
111	Hoffmann, Eric J.; Castle, Steven J.	2012	Imidacloprid in melon guttation fluid: a potential mode of exposure for pest and beneficial organisms.	J. Econ. Entomol., Volume 105, Issue 1, Page 67-71
112	Pohorecka, Krystyna [Reprint Author]; Skubida, Piotr; Miszczak, Artur; Semkiw, Piotr; Sikorski, Piotr; Zagibajlo, Katarzyna; Teper, Dariusz; Koltowski, Zbigniew; Skubida, Marta; Zdanska, Dagmara; Bober, Andrzej	2012	RESIDUES OF NEONICOTINOID INSECTICIDES IN BEE COLLECTED PLANT MATERIALS FROM OILSEED RAPE CROPS AND THEIR EFFECT ON BEE COLONIES.	Journal of Apicultural Science, (2012) Vol. 56, No. 2, pp. 115-134
113	Degrandi-Hoffman, Gloria; Sammataro, Diana; Simonds, Roger	2012	Are agrochemicals present in high fructose corn syrup fed to honey bees (<i>Apis mellifera</i> L.)?	Journal of Apicultural Research (2012), 51(4), 371-372
114	Pochi, Daniele; Biocca, Marcello; Fanigliulo, Roberto; Pulcini, Patrizio; Conte, Elisa	2012	Potential Exposure of Bees, <i>Apis mellifera</i> L., to Particulate Matter and Pesticides Derived from Seed Dressing During Maize Sowing	Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology (2012), 89(2), 354-361
115	Williamson, Sally M.; Baker, Daniel D.; Wright, Geraldine A.	2013	Acute exposure to a sublethal dose of imidacloprid and coumaphos enhances olfactory learning and memory in the honeybee <i>Apis mellifera</i> .	Invertebr. Neurosci., Volume 13, Issue 1, Page 63-70
116	Cresswell, James E.; Robert, Francois-Xavier L.; Florance, Hannah; Smirnov, Nicholas.	2013	Clearance of ingested neonicotinoid pesticide (imidacloprid) in honey bees (<i>Apis mellifera</i>) and bumblebees (<i>Bombus terrestris</i>).	Pest Manage. Sci., Page Ahead of Print
117	Derecka, Kamila; Blythe, Martin J.; Malla, Sunir; Genereux, Diane P.; Guffanti, Alessandro; Pavan, Paolo; Moles, Anna; Snart, Charles; Ryder, Thomas; Ortori, Catharine A.; Barrett, David A.; Schuster, Eugene; Stoger, Reinhard.	2013	Transient exposure to low levels of insecticide affects metabolic networks of honeybee larvae.	PLoS One, Volume 8, Issue 7, Page e68191

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
118	Pohorecka, Krystyna; Skubida, Piotr; Semkiw, Piotr; Miszczak, Artur; Teper, Dariusz; Sikorski, Piotr; Zagibajlo, Katarzyna; Skubida, Marta; Zdanska, Dagmara; Bober, Andrzej	2013	Effects of exposure of honey bee colonies to neonicotinoid seed-treated maize crops	Journal of Apicultural Science (2013), 57(2), 199-208
119	Palmer, Mary J.; Moffat, Christopher; Saranzewa, Nastja; Harvey, Jenni; Wright, Geraldine A.; Connolly, Christopher N.	2013	Cholinergic pesticides cause mushroom body neuronal inactivation in honeybees.	Nat. Commun., Volume 4, Issue March, Page ncomms2648, 8 pp
120	Hatjina, Fani; Papaefthimiou, Chrisovalantis; Charistos, Leonidas; Dogaroglu, Taylan; Bouga, Maria; Emmanouil, Christina; Arnold, Gerard.	2013	Sublethal doses of imidacloprid decreased size of hypopharyngeal glands and respiratory rhythm of honeybees in vivo.	Apidologie, Volume 44, Issue 4, Page 467-480
121	Rossi, Caroline De Almeida; Roat, Thaisa Cristina; Tavares, Daiana Antonia; Cintra-Socolowski, Priscila; Malaspina, Osmar.	2013	Effects of sublethal doses of acetamiprid and thiamethoxam on the behavior of the honeybee (<i>Apis mellifera</i>)	Microsc. Res. Tech., Volume 76, Issue 5, Page 552-558
122	Williamson, Sally M.; Wright, Geraldine A.	2013	Exposure to multiple cholinergic pesticides impairs olfactory learning and memory in honeybees.	J. Exp. Biol., Volume 216, Issue 10, Page 1799-1807
123	Husain, D.; Qasim, M.; Saleem, M.; Akhter, M.; Khan, K. A.	2014	Bioassay of insecticides against three honey bee species in laboratory conditions.	Cercetari Agronomice in Moldova (2014) , Volume 47, Number 2, pp. 69-79
124	Williamson, Sally M.; Willis, Sarah J.; Wright, Geraldine A.	2014	Exposure to neonicotinoids influences the motor function of adult worker honeybees	Ecotoxicology (2014) Ahead of Print

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
125	Lu, Chensheng [Reprint Author]; Warchol, Kenneth M.; Callahan, Richard A.	2014	Sub-lethal exposure to neonicotinoids impaired honey bees winterization before proceeding to colony collapse disorder.	Bulletin of Insectology, (JUN 2014) Vol. 67, No. 1, pp. 125-130
126	Tan, Ken; Chen, Weiwen; Dong, Shihao; Liu, Xiwen; Wang, Yuchong; Nieh, James C.	2014	Imidacloprid alters foraging and decreases bee avoidance of predators	PLoS One (2014), 9(7), e102725/1-e102725/8, 8 pp
127	Nicodemo, Daniel; Maioli, Marcos A.; Medeiros, Hyllana C. D.; Guelfi, Marieli; Balieira, Kamila V. B.; De Jong, David; Mingatto, Fabio E.	2014	Fipronil and imidacloprid reduce honeybee mitochondrial activity	Environmental Toxicology and Chemistry (2014), 33(9), 2070-2075
128	Sharma, Devinder; Abrol, D. P.	2014	Effect of insecticides on foraging behaviour and pollination role of <i>Apis mellifera</i> L. (Hymenoptera: Apidae) on toria (<i>Brassica campestris</i> var. toria) crop.	Egyptian Journal of Biology, (2014) Vol. 16, pp. 79-86
129	Aufauvre, Julie; Misme-Aucouturier, Barbara; Vignes, Bernard; Texier, Catherine; Delbac, Frederic; Blot, Nicolas	2014	Transcriptome analyses of the honeybee response to <i>Nosema ceranae</i> and insecticides	PLoS One (2014), 9(3), e91686/1- e91686/12, 12 pp
130	Fischer, Johannes; Mueller, Teresa; Spatz, Anne-Kathrin; Greggers, Uwe; Gruenewald, Bernd; Menzel, Randolph [Reprint Author]	2014	Neonicotinoids Interfere with Specific Components of Navigation in Honeybees.	PLoS One, (MAR 19 2014) Vol. 9, No. 3, pp. Article No.: e91364
131	Byrne, Frank J.; Visscher, P. Kirk; Leimkuehler, Bill; Fischer, Dave; Grafton- Cardwell, Elizabeth E.; Morse, Joseph G.	2014	Determination of exposure levels of honey bees foraging on flowers of mature citrus trees previously treated with imidacloprid	Pest Management Science (2014), 70(3),470-482
132	Jones, Ainsley; Harrington, Paul; Turnbull, Gordon	2014	Neonicotinoid concentrations in arable soils after seed treatment applications in preceding years	Pest Management Science (2014), 70(12),1780-1784

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
133	Samson-Robert, Olivier (Correspondence); Labrie, Genevieve; Chagnon, Madeleine; Fournier, Valerie	2014	Neonicotinoid-contaminated puddles of water represent a risk of intoxication for honey bees.	PLoS ONE, (1 Dec 2014) Vol. 9, No. 12. arn.e108443
134	Rinkevich, Frank D.; Margotta, Joseph W.; Pittman, Jean M.; Danka, Robert G.; Tarver, Matthew R.; Ottea, James A.; Healy, Kristen B.	2015	Genetics, synergists, and age affect insecticide sensitivity of the honey bee, <i>Apis mellifera</i>	PLoS One (2015), 10(10), e0139841/1-e0139841/12
135	Stanley, Johnson; Sah, Khushboo; Jain, S. K.; Bhatt, J. C.; Sushil, S. N.	2015	Evaluation of pesticide toxicity at their field recommended doses to honeybees , <i>Apis cerana</i> and <i>A. mellifera</i> through laboratory, semi-field and field studies	Chemosphere (2015), 119, 668-674
136	Mengoni Gonalons Carolina; Farina Walter Marcelo	2015	Effects of Sublethal Doses of Imidacloprid on Young Adult Honeybee Behaviour .	PloS one, (2015) Vol. 10, No. 10, pp. e0140814. Electronic Publication Date: 21 Oct 2015
137	Zhang Erica; Nieh James C	2015	The neonicotinoid imidacloprid impairs honey bee aversive learning of simulated predation.	The Journal of experimental biology, (20151000) Vol. 218, No. Pt 20, pp. 3199-205. Electronic Publication Date: 7 Sep 2015
138	Dively Galen P; Embrey Michael S; Kamel Alaa; Hawthorne David J; Pettis Jeffery S	2015	Correction: Assessment of Chronic Sublethal Effects of Imidacloprid on Honey Bee Colony Health.	PloS one, (2015) Vol. 10, No. 4, pp. e0126043. Electronic Publication Date: 24 Apr 2015
139	Blanken Lisa J; Van Langevelde Frank; Van Dooremalen Coby	2015	Interaction between <i>Varroa destructor</i> and imidacloprid reduces flight capacity of honeybees .	Proceedings. Biological sciences / The Royal Society, (2015 Dec 7) Vol. 282, No. 1820

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
140	Wu, Yan-Yan; Zhou, Ting [Reprint Author]; Wang, Qiang; Dai, Ping-Li; Xu, Shu-Fa; Jia, Hui-Ru; Wang, Xing	2015	Programmed Cell Death in the Honey Bee (<i>Apis mellifera</i>) (Hymenoptera: Apidae) Worker Brain Induced by Imidacloprid .	Journal of Economic Entomology, (AUG 2015) Vol. 108, No. 4, pp. 1486-1494
141	Koo, Jinmo; Son, Tae-Gwon; Kim, Soo-Yeon; Lee, Kyeong-Yeoll	2015	Differential responses of <i>Apis mellifera</i> heat shock protein genes to heat shock, flower-thinning formulations, and imidacloprid	Journal of Asia-Pacific Entomology (2015) Ahead of Print
142	Karahan, Ahmed; Cakmak, Ibrahim; Hranitz, John M.; Karaca, Ismail; Wells, Harrington	2015	Sublethal imidacloprid effects on honey bee flower choices when foraging	Ecotoxicology (2015) Ahead of Print
143	Slowinska, Mariola; Nynca, Joanna; Wilde, Jerzy; Bak, Beata; Siuda, Maciej; Ciereszko, Andrzej	2015	Total antioxidant capacity of honeybee haemolymph in relation to age and exposure to pesticide, and comparison to antioxidant capacity of seminal plasma	Apidologie (2015) Ahead of Print
144	Kessler Sebastien C; Tiedeken Erin Jo; Simcock Kerry L; Derveau Sophie; Mitchell Jessica; Softley Samantha; Stout Jane C; Wright Geraldine A	2015	Bees prefer foods containing neonicotinoid pesticides.	Nature, (2015 Apr 22) . Electronic Publication Date: 22 Apr 2015
145	Larson, Jonathan L.; Redmond, Carl T.; Potter, Daniel A.	2015	Mowing mitigates bioactivity of neonicotinoid insecticides in nectar of flowering lawn weeds and turfgrass guttation	Environmental Toxicology and Chemistry (2015), 34(1), 127-132
146	Sanchez-Hernandez, Laura; Hernandez- Dominguez, Deamelys; Martin, Maria T.; Nozal, Maria J.; Higes, Mariano; Bernal Yague, Jose L.	2015	Residues of neonicotinoids and their metabolites in honey and pollen from sunflower and maize seed dressing crops	Journal of Chromatography A (2015) Ahead of Print
147	Reetz J E; Wallner K	2015	Uptake of Neonicotinoid Insecticides by Water-Foraging Honey Bees (Hymenoptera: Apidae) Through Guttation Fluid of Winter Oilseed Rape.	Journal of economic entomology, (2015 Oct 29) . Electronic Publication Date: 29 Oct 2015

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
148	Biocca, Marcello; Fanigliulo, Roberto; Gallo, Pietro; Pulcini, Patrizio; Pochi, Daniele	2015	The assessment of dust drift from pneumatic drills using static tests and in-field validation.	Crop Protection, (MAY 2015) Vol. 71, pp. 109-115
149	Pochi, Daniele; Biocca, Marcello; Fanigliulo, Roberto; Gallo, Pietro; Fedrizzi, Marco; Pulcini, Patrizio; Perrino, Cinzia; Marcovecchio, Francesca	2015	A device for pneumatic precision drills reducing the drift of the abrasion dust from dressed seed.	Crop Protection, (AUG 2015) Vol. 74, pp. 56-64
150	Botias, Cristina; David, Arthur; Horwood, Julia; Abdul-Sada, Alaa; Nicholls, Elizabeth; Hill, Elizabeth; Goulson, Dave	2015	Neonicotinoid Residues in Wildflowers, a Potential Route of Chronic Exposure for Bees	Environmental Science and Technology (2015) Ahead of Print
151	Dai Ping-Li; Jia Hui-Ru; Geng Li-Li; Diao Qing-Yun	2016	Bt Toxin Cry1Ie Causes No Negative Effects on Survival, Pollen Consumption, or Olfactory Learning in Worker Honey Bees (Hymenoptera: Apidae).; Bt Toxin Cry1Ie Causes No Negative Effects on Survival, Pollen Consumption, or Olfactory Learning in Worker Ho	Journal of economic entomology, (2016 Apr 27). Electronic Publication Date: 27 Apr 2016
152	Dussaubat, Claudia; Maisonnasse, Alban; Crauser, Didier; Tchamitchian, Sylvie; Bonnet, Marc; Cousin, Marianne; Kretzschmar, Andre; Brunet, Jean-Luc; Le Conte, Yves	2016	Combined neonicotinoid pesticide and parasite stress alter honeybee queens physiology and survival	Scientific Reports (2016), 6, 31430
153	Wu-Smart, Judy; Spivak, Marla	2016	Sub - lethal effects of dietary neonicotinoid insecticide exposure on honey bee queen fecundity and colony development	Scientific Reports (2016), 6, 32108
154	Meikle, William G.; Adamczyk, John J.; Weiss, Milagra; Gregorc, Ales; Johnson, Don R.; Stewart, Scott D.; Zawislak, Jon; Carroll, Mark J.; Lorenz, Gus M.	2016	Sublethal effects of imidacloprid on honey bee colony growth and activity at three sites in the U.S..	PLoS ONE, (December 2016) Vol. 11, No. 12. arn. e0168603

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
155	Chaimanee, Veeranan; Evans, Jay D.; Chen, Yanping; Jackson, Caitlin; Pettis, Jeffery S.	2016	Sperm viability and gene expression in honey bee queens (<i>Apis mellifera</i>) following exposure to the neonicotinoid insecticide imidacloprid and the organophosphate acaricide coumaphos	Journal of Insect Physiology (2016), 89, 1-8
156	Peng Yi-Chan; Yang En-Cheng	2016	Sublethal Dosage of Imidacloprid Reduces the Microglomerular Density of Honey Bee Mushroom Bodies.	Scientific reports, (2016) Vol. 6, pp. 19298. Electronic Publication Date: 13 Jan 2016
157	Ciereszko, Andrzej; Wilde, Jerzy; Dietrich, Grzegorz J.; Siuda, Maciej; Bak, Beata; Judycka, Sylwia; Karol, Halina	2016	Sperm parameters of honeybee drones exposed to imidacloprid	Apidologie (2016) Ahead of Print
158	Wilde, Jerzy; Fraczek, Regina J.; Siuda, Maciej; Bak, Beata; Hatjina, Fani; Miszczak, Artur Wilde, Jerzy; Bak, Beata Fraczek, Regina J. Hatjina, Fani Miszczak, Artur	2016	The influence of sublethal doses of imidacloprid on protein content and proteolytic activity in honey bees (<i>Apis mellifera</i> L.)	JOURNAL OF APICULTURAL RESEARCH, (2016) Vol. 55, No. 2, pp.212-220
159	Christen, Verena; Mittner, Fabian; Fent, Karl	2016	Molecular Effects of Neonicotinoids in Honey Bees (<i>Apis mellifera</i>)	Environmental Science and Technology (2016) Ahead of Print
160	Wegener, Jakob; Ruhnke, Haike; Milchreit, Kathrin; Kleebaum, Katharina; Franke, Monique; Mispagel, Sebastian; Bischoff, Gabriela; Kamp, Guenter; Bienefeld, Kaspar	2016	Secondary biomarkers of insecticide-induced stress of honey bee colonies and their relevance for overwintering strength	Ecotoxicology and Environmental Safety (2016), 132, 379-389
161	Long, Elizabeth Y.; Krupke, Christian H.	2016	Non-cultivated plants present a season-long route of pesticide exposure for honey bees.	Nature Communications, (31 May 2016) Vol.7. arn. 11629

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
162	Yue Meng; Luo Shudong; Liu Jialin; Wu Jie	2017	Apis cerana Is Less Sensitive to Most Neonicotinoids, Despite of Their Smaller Body Mass.	Journal of economic entomology, (2017 Dec 19). Electronic Publication Date: 19 Dec 2017
163	Catae Aline Fernanda; Roat Thaisa Cristina; Pratavieira Marcel; Silva Menegasso Anally Ribeiro Da; Palma Mario Sergio; Malaspina Osmar	2017	Exposure to a sublethal concentration of imidacloprid and the side effects on target and nontarget organs of Apis mellifera (Hymenoptera, Apidae).	Ecotoxicology (London, England), (2017 Nov 10). Electronic Publication Date: 10 Nov 2017
164	Sanchez-Bayo, Francisco; Belzunces, Luc; Bonmatin, Jean-Marc	2017	Lethal and sublethal effects, and incomplete clearance of ingested imidacloprid in honey bees (Apis mellifera)	Ecotoxicology (2017), 26(9), 1199-1206
165	Abbo, Pendo M.; Kawasaki, Joshua K.; Hamilton, Michele; Cook, Steven C.; Degrandi-Hoffman, Gloria; Li, Wen Feng; Liu, Jie; Chen, Yan Ping	2017	Effects of Imidacloprid and Varroa destructor on survival and health of European honey bees, Apis mellifera	Insect Science (2017), 24(3), 467-477
166	De Smet Lina; Hatjina Fani; Ioannidis Pavlos; Hamamtzoglou Anna; Schoonvaere Karel; Francis Frederic; Meeus Ivan; Smagghe Guy; De Graaf Dirk C	2017	Stress indicator gene expression profiles, colony dynamics and tissue development of honey bees exposed to sub - lethal doses of imidacloprid in laboratory and field experiments.	PloS one, (2017) Vol. 12, No. 2, pp. e0171529
167	Wu Yan-Yan; Luo Qi-Hua; Hou Chun-Sheng; Wang Qiang; Dai Ping-Li; Gao Jing; Liu Yong-Jun; Diao Qing-Yun	2017	Sublethal effects of imidacloprid on targeting muscle and ribosomal protein related genes in the honey bee Apis mellifera L.	Scientific reports, (2017 Nov 21) Vol. 7, No.1, pp. 15943. Electronic Publication Date: 21Nov 2017
168	Alburaki, Mohamed; Steckel, Sandra J.; Chen, Deniz; Mcdermott, Erin; Weiss, Milagra; Skinner, John A.; Kelly, Heather; Lorenz, Gus; Tarpy, David R.; Meikle, William G.; Adamczyk, John; Stewart, Scott D.	2017	Landscape and pesticide effects on honey bees: forager survival and expression of acetylcholinesterase and brain oxidative genes	Apidologie (2017) Ahead of Print

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
169	Raymann, Kasie; Motta, Erick V.S.; Moran, Nancy A.; Girard, Catherine; Riddington, Ian M.; Dinser, Jordan A.	2018	Imidacloprid decreases honey bee survival rates but does not affect the gut microbiome	Applied and Environmental Microbiology (1 Jul 2018) Volume 84, Number 13, arn: e00545-18
170	Wong, Michael J.; Liao, Ling-Hsiu; Berenbaum, May R.	2018	Biphasic concentration-dependent interaction between imidacloprid and dietary phytochemicals in honey bees (Apis mellifera).	PLoS ONE, (November 2018) Vol. 13, No. 11. arn. e0206625
171	Gregorc Ales; Alburaki Mohamed; Rinderer Nicholas; Sampson Blair; Knight Patricia R; Karim Shahid; Adamczyk John	2018	Effects of coumaphos and imidacloprid on honey bee (Hymenoptera: Apidae) lifespan and antioxidant gene regulations in laboratory experiments.	Scientific reports, (2018 Oct 09) Vol. 8, No. 1, pp. 15003. Electronic Publication Date: 9 Oct 2018
172	Manjon, Cristina; Troczka, Bartlomiej J.; Zaworra, Marion; Beadle, Katherine; Randall, Emma; Hertlein, Gillian; Singh, Kumar Saurabh; Zimmer, Christoph T.; Homem, Rafael A.; Lueke, Bettina; Reid, Rebecca; Kor, Laura; Kohler, Maxie; Benting, Juergen; Willi	2018	Unravelling the Molecular Determinants of Bee Sensitivity to Neonicotinoid Insecticides	Current Biology (2018), 28(7), 1137-1143.e5
173	Balieira, Kamila Vilas Boas; Mazzo, Meiriele; Bizerra, Paulo Francisco Veiga; Guimaraes, Anilda Rufino De Jesus Santos; Nicodemo, Daniel; Mingatto, Fabio Erminio	2018	Imidacloprid -induced oxidative stress in honey bees and the antioxidant action of caffeine	Apidologie (2018) Ahead of Print

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
174	Nicodemo, Daniel; De Jong, David; Reis, Leriana Garcia; Volpini De Almeida, Joyce Mayra; Dos Santos, Anderson Augusto; Manzani Lisboa, Lucas Aparecido Nicodemo, Daniel; Manzani Lisboa, Lucas Aparecido De Jong, David Volpini De Almeida, Joyce Mayra	2018	Transgenic corn decreased total and key storage and lipid transport protein levels in honey bee hemolymph while seed treatment with imidacloprid reduced lipophorin levels	JOURNAL OF APICULTURAL RESEARCH, (2018) Vol. 57, No. 2, pp.321-328
175	Mach, Bernadette M.; Bondarenko, Svetlana; Potter, Daniel A.	2018	Uptake and dissipation of neonicotinoid residues in nectar and foliage of systemically treated woody landscape plants	Environmental Toxicology and Chemistry (2018), 37(3), 860-870
176	Jacob, Cynthia R. O.; Malaquias, Jose B.; Zanardi, Odimar Z.; Silva, Carina A. S.; Jacob, Jessica F. O.; Yamamoto, Pedro T.	2019	Oral acute toxicity and impact of neonicotinoids on <i>Apis mellifera</i> L. and <i>Scaptotrigona postica</i> Latreille (Hymenoptera: Apidae)	Ecotoxicology (2019 Ahead of Print
177	Hesselbach Hannah; Scheiner Ricarda	2019	The novel pesticide flupyradifurone (Sivanto) affects honeybee motor abilities.	Ecotoxicology (London, England), (2019 Mar 02). Electronic Publication Date: 2 Mar 2019
178	Li, Zhiguo; Yu, Tiantian; Chen, Yanping; Heerman, Matthew; He, Jingfang; Huang, Jingnan; Nie, Hongyi; Su, Songkun	2019	Brain transcriptome of honey bees (<i>Apis mellifera</i>) exhibiting impaired olfactory learning induced by a sublethal dose of imidacloprid	Pesticide Biochemistry and Physiology (2019) Ahead of Print
179	Colin, Theotime; Meikle, William G.; Paten, Amy M.; Barron, Andrew B.	2019	Long-term dynamics of honey bee colonies following exposure to chemical stress	Science of the Total Environment (2019), 677, 660-670

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
180	Tesovnik, T.; Zorc, M.; Gregorc, A.; Rinehart, T.; Adamczyk, J.; Narat, M.	2019	Immune gene expression in developing honey bees (Apis mellifera L.) simultaneously exposed to imidacloprid and Varroa destructor in laboratory conditions.	Journal of Apicultural Research (2019), Volume 58, Number 5, pp. 730-739
181	Colin, Theotime; Meikle, William G.; Wu, Xiaobo; Barron, Andrew B.	2019	Traces of a Neonicotinoid Induce Precocious Foraging and Reduce Foraging Performance in Honey Bees	Environmental Science and Technology (2019), 53(14), 8252-8261
182	Alburaki Mohamed; Karim Shahid; Lamour Kurt; Adamczyk John; Stewart Scott D	2019	RNA-seq reveals disruption of gene regulation when honey bees are caged and deprived of hive conditions.	The Journal of experimental biology, (2019 Sep 18) Vol. 222, No. Pt 18. Electronic Publication Date: 18 Sep 2019
183	Delkash-Roudsari, Sahar; Chicas-Mosier, Ana M.; Goldansaz, Seyed Hossein; Talebi-Jahromi, Khalil; Ashouri, Ahmad; Abramson, Charles I.	2020	Assessment of lethal and sublethal effects of imidacloprid, ethion, and glyphosate on aversive conditioning, motility, and lifespan in honey bees (Apis mellifera L.)	Ecotoxicology and Environmental Safety (2020), 204, 111108
184	Colin, Theotime; Plath, Jenny A.; Klein, Simon; Vine, Peta; Devaud, Jean-Marc; Lihoreau, Mathieu; Meikle, William G.; Barron, Andrew B.	2020	The miticide thymol in combination with trace levels of the neonicotinoid imidacloprid reduces visual learning performance in honey bees (Apis mellifera)	Apidologie (2020) Ahead of Print
185	Zhang, Zu Yun; Li, Zhen; Huang, Qiang; Yan, Wei Yu; Zhang, Li Zhen; Zeng, Zhi Jiang	2020	Honeybees (Apis mellifera) modulate dance communication in response to pollution by imidacloprid	Journal of Asia-Pacific Entomology (1 Jun 2020) Volume 23, Number 2, pp. 477-482

文献 整理 番号	著 者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
186	Tome, Hudson V. V.; Schmehl, Daniel R.; Wedde, Ashlyn E.; Godoy, Raquel S. M.; Ravaiano, Samira V.; Guedes, Raul N. C.; Martins, Gustavo F.; Ellis, James D.	2020	Frequently encountered pesticides can cause multiple disorders in developing worker honey bees	Environmental Pollution (Oxford, United Kingdom) (2020), 256, 113420
187	Paleolog, Jerzy; Wilde, Jerzy; Siuda, Maciej; Bak, Beata; Wojcik, Lukasz; Strachecka, Aneta	2020	Imidacloprid markedly affects hemolymph proteolysis, biomarkers, DNA global methylation, and the cuticle proteolytic layer in western honeybees	Apidologie (2020) Ahead of Print
188*	Sandhya Malladi et al	2023	Imidacloprid and acetamiprid synergistically downregulate spaetzle and myD88 of the Toll pathway in haemocytes of the European honeybee (<i>Apis mellifera</i>)	Environ Toxicol Pharmacol. 2023 Nov;104:104323. doi:10.1016/j.etap.2023.104323.
189*	Mark J Carroll et al	2024	Sublethal effects of imidacloprid-contaminated honeystores on colony performance, queens, and worker activities in fall and early winter colonies	PLoS One :e0292376. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0292376

*イミダクロプリドの事前の情報募集の仕組みにおいて提供のあった情報